

■ □工業英検 1 級に合格して □ ■

— 受験はいつも人生の大きな節目だった —

吉田 旬子

工業英検 1 級の体験記を、とのお話をいただきました。思えば今から 1 年ほど前の水上セミナーの帰り道、前川さんに「1 級を受験するつもりなんです」とお話ししたところ、前川さんは受験の参考にと、以前の会員の方が合格体験記を書かれた OSTEC ジャーナルのバックナンバーを早速送って下さいました。当時、それから受験の前にも何度も読み返したものです。まさか 1 年後に私自身が体験記を書かせていただくことになるとは、その時は夢にも思っておりませんでした。

テクニカルライティング、工業英検との出会い

中学の頃から英語が好きで、大学を卒業するまではずっと何らかの形で英語に接していました。就職してからはそれもなくなり少し寂しいなあと思っていた入社 2 年目、海外事業部で、引き合いなどへの返事として時々英文レターを書くようになりました。忙しい上司の代わりに下書きをして、目を通してもらった上でサインをいただくので、(机に向かってあれこれと考えながら書いている間は楽しいのですが) 上司に提出するときは、すぐに万年筆をとってサインしてもらえるか不安で、いつもドキドキしていました。英文レターの本を買ってきて自己流で書いているうちに、「自然な、英語らしい英語を書きたい」と思うようになったのが、通信講座を始めたきっかけでした。ただし、最初の意気込みとは裏腹に、締切日ぎりぎりになって課題だけ解いて出す…という生来の怠け癖は直りません。その後生活環境が変わり、何か新しいことを始めたいと思ったこともあって、97 年春、バベルの英文ライティング講座を受け、以来 4 年半にわたって村田先生にご指導をいただくようになりました。

村田先生からアドバイスをいただき、工業英検を初めて受験したのは97年の秋のことです。欲張って3級と2級をダブル受験しましたが、2級はやはり難しく、翌年再受験しました。(4級から1級までの試験が朝から夕方まで順番に行われるのですが、ダブル受験は疲れますので、気力と体力に自信のある方以外にはあまりおすすめできません。)そして98年、2級に合格した後、村田先生のご紹介でOSTECに入会させていただきました。

「2級がとれたらもう工業英検は卒業・・・(1級なんて受験するのも恐れ多い)」と思っていた私でしたが、村田先生が私たち生徒に何度も熱心に勧めてくださったことから「ダメでもともと」と受ける気になりました。それは、実際に受験することになる1年前のことでした。

一次試験対策

一次試験で出題されるのは、英文和訳、和文英訳、長文の要約、修辞問題(文の書き換え)などです。英文和訳と和文英訳は、内容やレベル、量などからみて水上セミナーの試験問題がよい練習になると思います。長文の要約は、バベルの村田先生の授業で最初と最後の2回だけ特別講義をしてくださる林田先生が、日本の新聞の記事を読んで英語のタイトルとリード、要約文を書くという演習問題をよく出されていまして、それが参考になりました。修辞問題については、2級でも出題されますので、2級の問題集も参考になると思います。

一次試験の対策として、私は『工業英検1級問題集』と『工業英検1級対策』の2冊を買いました。私は最初『1級問題集』(過去10年間の試験問題を収録)から手をつけるつもりでしたが、いきなりは難しかったので『1級対策』の方を読むことにしました。こちらは“Welcome to Technical Writing”という、テクニカルライティングに関するテキスト(日本語版と英語版の両方を収録)で、親しみやすく、何度も読みました。テクニカルライティングの特徴について分かりやすく説明しており、問題演習も豊富です。

試験問題の中で扱われるトピックはさまざまですが、広く浅く取り上げられるので、専門用語を特に勉強する必要はないと思います。最近話題に

なったトピックが採用されることも多いので、英文の雑誌や新聞で気になる記事にざっと目を通しておくと、予備知識として役に立ちます。私は村田先生にアドバイスをいただいて **Scientific American** を定期購読しました。グループ研でも **Scientific American** の記事がよく取り上げられています。

一次試験は自然体？で

実は、このように対策本を読んだり問題集を解いたりしていたのは最初の数ヶ月だけで、その後は会社の仕事が忙しくなったこともあって特別なことはあまりできませんでした（この原稿を書くとき分かっていたら、もっとちゃんと勉強していたと思いますが…）。でも、水上セミナー、グループ研、バベルの3つを受講し続けたことが、私にとって本当に効果的な試験対策だったと思います。過去問題集で問題の傾向が分かれば、あとは自分の生活ペースにうまく組み込める勉強法をとればよいのではないのでしょうか。

1級の試験会場は一部の地域に限定されているので、関西では大阪の1会場のみです。2級までは京都で受験していたので、この会場は初めてでした。当日、梅田行きの電車に乗ってから何気なく受験票を見たところ、集合時刻を勘違いしていたことに気づきました。思っていたより20分も早いなんて…。でも、受験者らしい男性が乗り合わせていたので、きっと間に合う、と気を取り直しました。梅田から環状線に乗り換えましたが、会場の最寄駅である大正駅は私が思っていたより遠く、結局、大正駅から会場まで必死で走るはめになりました。エレベータにすべりこみ、席に着いたのは集合時刻2分前。ひやひやしましたが、なんとか間に合ったのでほっとして逆に緊張が解けました。早くから席に着いて開始を待っていたよりもかえってリラックスでき、自然体で受験できたかもしれません。

一次試験は、とにかく時間との戦いでした。私は問題の種類ごとにおよその制限時間を決めておき、問題集を解くときは時間を計って、その制限時間内で解くようにしていました。辞書は2冊まで持ち込めますが、問題の量が多いので辞書を引いている余裕はほとんどありませんでした。私が

持ち込んだ辞書は、普段から使っている学習中辞典の英和と和英です。専門的な語彙は問われませんので、これで充分だと思います（大きな辞書を使うと場所もとりますし、引くのに時間がかかります）。電子辞書は持ち込めないことになっています。

二次試験対策

二次試験は、15分程度の面接です。日本人の試験官が日本語で簡単な質問（名前、現在の仕事の内容など）をしたあと、ネイティブの試験官がテクニカルライティングについて英語で質問をしていきます。受験者は日本語（または英語）で質問に答えます。英語で答えたからといって点数が高くなるわけではないそうです。（私は迷いなく日本語を選びました！）

まさか二次試験を受けることになるとは思っていなかったため、二次試験対策には試験日前の1週間をあてました。二次試験対策にも、上に述べた『工業英検1級対策』がよいと思います。私は、この本を中心にテクニカルライティングについて書かれたものを2冊読み、これをもとに自分なりの想定問答集を作りました。

とにかく緊張した二次試験

二次試験が行われる部屋に案内されると、正面にネイティブの試験官と水上先生が座っておられました。水上先生のお姿を見つけて一瞬ほっとしたもの、試験が始まるとすぐにまた緊張してしまいました。こんなに長い15分は、これまでに経験したことがありません。そのとき私がネイティブの試験官から受けた質問の内容は、次のようなものです。

- ・テクニカルライティングについて今までにどのような勉強をしたか
- ・テクニカルライティングにおいて大事な3つのCとは
- ・テクニカルドキュメントの種類にはどのようなものがあるか
- ・トピックセンテンスはなぜ重要なのか
- ・1つのパラグラフの標準的なセンテンス数
- ・パラグラフの構造、目的に応じてどのような形があるか
- ・テクニカルライティングのチームのマネージャに求められる資質

細かな質問内容は毎年変わるものの、問題の傾向は少なくとも数年前から変わっていないようです。

1級の問題集には、二次試験の問題は掲載されていません。テクニカルライティングに携わっている経験がなければ、このような質問をいきなり受けて答えるのは難しいと思います。私の場合は、幸い過去に受験された方からの情報を知り、ある程度対策を立てることができましたが、やはり自分の経験にない質問は答えるのが難しく、何度も表現を変えて質問されてもうまく答えることができませんでした。

工業英検は大きな節目

二次試験は大失敗だったとっていましたので、試験後の水上セミナーの場で、水上先生が一足早く合格を教えてくださいましたときは思わず耳を疑いました。その日の夕方自宅に戻ると、ポストには本当に合格通知が入っていました！振り返れば、これまでの3回の工業英検受験は、私にとっていつも大きな節目を作ってくれました。バベルで基礎クラスから専門クラスに移ったとき、OSTECに入会させていただいたとき……。1級も、新しいことを始めるきっかけになりました。試験を通じてテクニカルライティングを改めて勉強することができたのも、もちろん貴重な体験でした。「資格は持っているけれど……？」と言われたいやう、実力と経験を身につけていきたいと思っています。

